



ときしみず ジオめぐり



案内人
土井 恵治
(ジオパーク専門員)

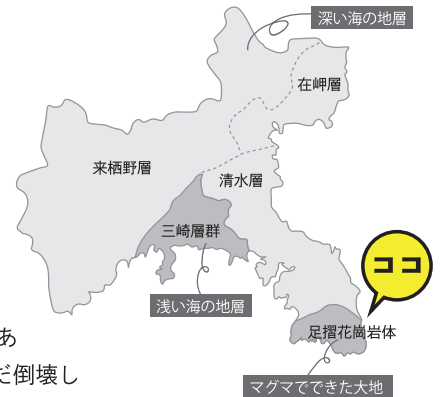
あかばえ しろばえ くろばえ 赤磐・白磐・黒磐

地下深くのマグマが うごめく様子が見られる場所!?

11月、12月は在岬、布岬と市の北の方のジオサイトをご紹介しましたが、今回は国道321号を一気に南に向かい、市街地を抜け、県道27号線を足摺半島の東に回り足摺岬まで下ります。足摺岬手前にある県道沿いの足摺岬東駐車場まで来るとぐっと眺望が開け、土佐湾が一望できます。この駐車場から北の方角に目を向けると、手前から黒、白、赤のコントラストが映える磐が見えます(写真:足摺岬東駐車場からの眺め)。ここはジオサイトの赤磐・白磐・黒磐です。足摺半島の南端部には東西5km、南北4kmに渡り花崗岩が付加体の地層(清水層)に貫入していて、この一帯の地層は足摺岬花崗岩体と呼ばれています。1300万年前頃に冷え固まったとされている足摺岬花崗岩体には白っぽい花崗岩のほか、黒い玄武岩質の岩石が混ざった花崗岩や日本ではここでしか見られないラパキビ花崗岩があります。写真に写る黒磐は玄武岩質の岩、白磐は花崗岩そのもの、赤磐は清水層の堆積岩が高温のマグマに接して変化したもの(ホルンフェルス)です。

赤磐の向こう側にはジオサイト「津呂の駄場」も見えています。駐車場も津呂駄場も海拔40~50mの海成段丘上にあり、海岸に行くには急な崖を下ることになります。地元の人たちが県道から海岸を下りるのに

使う道があり、そこを注意深く下りていくと、あるところでは道をふさいだ倒壊した小屋を乗り越え、また、あるところではロープ伝いに、さらに急階段を下り、最後にダンチク(ヨセ)が生い茂る藪を抜けるとようやく海岸に出ることができます。間近で見る赤磐、白磐は駐車場からは見ることができないマグマに焼かれて変質した堆積岩が花崗岩と接触している様子がよりはっきりわかります。赤磐から黒磐にかけて約700mの岩だらけの海岸を歩くと足摺岬花崗岩体の特徴を有している転石が多数目に留まり、それらを見ているだけでも多様な花崗岩体の岩の成り立ちについて想像を掻き立てられます。黒磐を作っている玄武岩質の岩は足摺岬花崗岩体の中ではマイナーですが、黒磐の大きさを見ると改めて花崗岩マグマの中でうごめく種類の違うマグマのポリウムを思い浮かべることができます。また黒磐の近くにはラパキビ花崗岩の岩体が露出している崖がありここも圧巻です。なお、今月ご紹介した赤磐・白磐・黒磐も遊歩道が整備されていませんのでアクセスするにはそれなりの覚悟が必要です。



▼足摺岬東側駐車場からの眺め



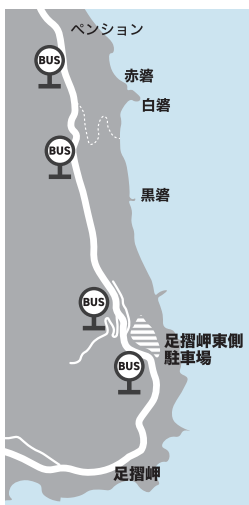
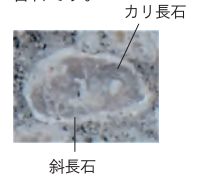
日本でここだけ!

ラパキビ花崗岩

ラパキビ花崗岩は、北欧などの大陸に分布する岩石。大陸のラパキビ花崗岩は13~17億年前と、とても古い時代にできたものですが、足摺岬のものは約1300万年前と、世界一新しいと言われており、新たな発見の可能性を秘めています。国立公園エリアやジオサイトでの岩石の持ち帰りはダメ、ゼッタイ!



ラパキビ花崗岩の特徴はほんのリンク色のカリ長石の周りを縁取る白い斜長石が特徴の可愛い岩石です。



《左》赤磐のホルンフェルス
左側がマグマの熱で変質した清水層
《下》黒い玄武岩質の岩が混ざった花崗岩



いろいろな花崗岩の表情が見えて楽しい場所ですよ!



イベント情報

作ってたべる食堂 vol.3 貝ノ川のぶりうどん

貝ノ川地区の隠れた名物「ぶりうどん」は、プリのアラで出汁をとったガツンと美味しいうどん。貝ノ川地区の大地と歴史を紐解きながら、「ぶりうどん」ができた背景を探っていきます。

日時: 2022年1月29日(土) 9:30~13:00

場所: 貝ノ川郷集会所 参加料: 1000円

内容: まちあるき、調理実践、試食

お申し込み: 土佐清水ジオパーク推進協議会

(TEL: 87-9590) 詳細はWEBサイトをご覧ください。

